

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600500
法人名	有限会社ハーティーマインドなぎの
事業所名	グループホームハーティーマインドなぎの
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3379番地の1 (電話) 0947-72-7778

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 6月 26日
評価確定日	20年 8月 7日

【情報提供票より】 (平成20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	9 人
常勤	8人
非常勤	1人
常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	有(0円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,340	円	

(4) 利用者の概要 (平成20年 6月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	74歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川口医院(内科、耳鼻咽喉科、循環器科) ひらつか歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園に囲まれた静かな環境の中にある平屋の1ユニットの事業所で、同法人が経営する有料老人ホーム2棟と同じ敷地に建てており、今年開所した介護ハウスも隣にある。利用者の高齢化が進む中で、職員は一人ひとりの個性や習慣を把握してきめ細かい介護を目指している。事業所の「心得」を毎朝利用者と一緒に唱和しながら、地域との繋がりを含め、職員全員で作らあげた新しい理念のもと、これまで以上に利用者本位の介護を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善シートを作り、優先順位を決め改善している。事業所独自の「理念」の作成に全員で取り組み、地域密着の視点を加えた理念を完成させている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で自己評価に取り組んでいる。職員もその重要性を認識しており、昨年からの課題や改善点を意識し改善に向けた取り組みをしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、問題点の指摘や行事の報告、今後の予定などの情報交換を行っている。外部評価に関しては2回に渡り話し合い、運営委員からの意見や改善点なども取り入れ、日常の介護の改善や見直しなどに繋げている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	日常の様子や報告時や、事業所の大きな行事に家族の参加があった際に、機会を利用して意見を聴くようにしている。日常のケアに家族の意見を取り入れ改善している。苦情に関する窓口は玄関に掲示し、利用時に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や夏祭りなどに参加したり、町の文化祭に作品を出展し、地域との関わりを持っている。また保育園の運動会を見学したり、中学校の職場体験等を受け入れている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で利用者さんが安心して暮らせる施設作りと地域との交流を深め福祉活動を推進していきます」という地域密着の視点も加わった独自の理念を、職員全員で考え、作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の「心得」等を毎朝唱和し、理念の具体化や実践に活かしている。「地域との交流」の実現として、定期的な地域の廃品回収行事に参加し地域との繋がりを築いている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や夏祭りなどに参加したり、町の文化祭に作品を出展し、地域との関わりを持っている。また保育園の運動会を見学したり、中学校の職場体験等を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義やその結果等は職員に伝達し、今回の自己評価は職員全体で取り組んでいる。前回外部評価の改善項目については、事業所独自の「理念」の作成に全員で取り組み、地域密着の視点を加えた理念を完成させている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、問題点の指摘や行事の報告、今後の予定などの情報交換を行っている。外部評価に関しては2回に渡り話し合い、運営委員からの意見や改善点なども取り入れ、日常の介護の改善や見直しなどに繋げている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加があり、窓口へ事業所便りを持参している。	○	事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や施設長等の一部の職員が研修を受け、パンフレットやその資料はあるが、伝達研修はない。また、利用時に家族や利用者に権利擁護や成年後見制度について説明はしていない。	○	制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の暮らしぶりを報告している。また3ヶ月に1回発行の事業所便りには、近況報告や写真を載せて様子を知らせ、個人の様子を便りに書き添えている。金銭管理については、個人の出納簿を作り利用者にサインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子や報告時や、事業所の大きな行事に家族の参加があった際に、機会を利用して意見を聴くようにしている。日常のケアに家族の意見を取り入れ改善している。苦情に関する窓口は玄関に掲示し、利用時に説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるため、労働条件を改善し、職員の働く意欲を向上させている。やむを得ず離職する場合は、十分な引継ぎができるよう配慮している。退職や新規採用の場合は事業所便りなどで紹介し、利用者・家族の不安が無いように対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>新規採用では、年齢、性別、資格の有無などで採用選考から排除する事はない。定年はあるが、働く意欲があれば、継続も可能である。また、キャリアアップや資格取得のために、勤務時間の調整等を配慮し、職員の自己実現を支援する環境がある。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>一部の職員が人権学習に関する外部研修に参加しているが、伝達研修は行っていない。テキストやパンフレット等がある。</p>	○	<p>制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の資格取得やキャリアアップのための機会を確保している。介護実務者研修の受講や介護福祉士の資格取得に挑戦するなど、個々人の努力を支援している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他の事業所との交流している。</p>	○	<p>地域の同業者と交流する機会を持ち、職員の相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や事前の自宅訪問や病院訪問を行っている。やむを得ず即入居になった場合は、不安や帰宅願望のある方には家族に来院して一緒に過ごして貰い、できるだけ不安を取り除く工夫をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で職員と共に助け合い、食事の準備や配膳、片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、家庭菜園作りを一緒にしている。年長者の経験が活かされることが多く、職員は利用者からアドバイスを受け、学びながら生活している。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言動や表情を見ながら、希望・意向の把握に努めている。言葉の表出が難しい利用者には、表情や行動でトイレ誘導なのか、散歩に出たいのかなどを把握している。職員全体の共通認識がある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は一人ひとりの状態に沿って、職員・管理者・家族の意見を聞き計画作成担当者が作成している。家族の来苑時に介護計画を確認し、署名をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則としては3ヶ月毎に見直し、また状態の変化に即して、見直している。緊急時には電話で家族の了解を得て介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の入院時には家族及び医療機関と協議し、早期退院に向けて連携を図っている。通院や送迎など必要に応じて支援をしている。なお協力医の往診が毎日できる体制をとっており、利用者の状態の変化には迅速な対応ができています。</p>		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聴き、かかりつけ医の受診など希望に添った受診支援を行っている。家族には毎月受診の報告をし、状態の変化などがあつたときはその都度家族へ電話で連絡をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての方針を持っており、利用者が重度化した場合や終末期のあり方について、利用時に家族に方針をや対応を説明している。また折に触れ本人・家族と医療関係者・管理者などで話し合い、対応を検討している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に特に気をつけている。記録簿等の個人情報の取り扱いについては、職員の採用時に同意を得て誓約書を提出してもらっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、本人本位の支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで食卓を囲み、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりに配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、時間も柔軟に支援し、利用者にとって入浴が楽しいものとなっている。現在、入浴拒否の利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、支援している。利用者は習字の稽古や折り紙をしたり、玄関のプランターに胡瓜を植えたりカレンダーの日めくりをしたりして楽しんでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日自由に事業所周辺を散歩したり、週1回は買い物に行ったり、3ヶ月に1回のドライブや外食などを楽しんでいる。外出は利用者の希望を取り入れて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口は玄関と勝手口の2ヶ所で、日中は鍵をかけることはない。玄関にはドアベルとセンサーを設置している。職員は利用者の外出傾向を把握し見守りや付き添いなどを行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルや連絡網を作成し、職員が目につきやすい所に掲げている。避難訓練は事業所独自で年2回実施している。非常食や飲料水、備品を準備している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、消防署の協力及び地域住民の参加や協力を得ながら避難訓練を実施し、避難場所の確認等も徹底してほしい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者全員の栄養摂取量及び水分摂取量は詳細に記録している。利用者の状態や嗜好・要望にあわせ職員が献立を作成し、年2回、栄養士に指導を受けている。また、疾病のある利用者の食事については医師の専門的なアドバイスを受け、利用者の健康管理に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>見渡しのいい広々とした居間は、天窓からの柔らかい光が差し込み和やかな雰囲気である。季節の花や、利用者が作った日めぐりカレンダーや折り紙で作成した季節の風景や習字の作品が飾られ、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の馴染みのタンスや机を置き、好みの物や家族の写真などが飾られ家庭的な雰囲気、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。